

【2020年8月の熱中症統計について】

2020年8月の熱中症による救急搬送人員の統計を取りまとめましたので公表します。

なお、今年は例年以上に残暑が厳しい予報となっておりますので、引き続き熱中症に関する注意喚起のご協力をお願いします。

※ 最高気温は消防本部観測の数値

※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値

1 最高気温と熱中症による救急搬送人員の推移の比較

2020年8月と過去の平均（熱中症による救急搬送人員が多かった2015年、2018年、2019年の平均）を比較すると、過去の平均は8月の上旬から下旬にかけて最高気温の低下とともに救急搬送人員も徐々に減少していることが分かります。

一方で2020年は、ほぼ1カ月間に渡って最高気温が30℃を上回り、さらに救急搬送人員も人数の増減はありますが横ばいとなりました。（図1、図2）

2 発症時の行動等

2020年8月に熱中症により救急搬送された方の発症時の行動等（全年齢）をみると、最も多いのが「自宅等で活動なし」で44.4%（52人）、次いで「屋外活動中」が19.7%（23人）、「移動中」が13.7%（16人）と続きます。（図3）

65歳以上でみると「自宅等で活動なし」の割合は58.8%（40人）に増加します。

暑い日が続いたことで体力が低下し、就寝中や起床後に体調不良を訴える事例が多くありました。（図4）

65歳未満でみると、「屋外活動中」が最も多く28.6%（14人）となり、その多くが仕事に関連する作業などによるものでした。（図5）

3 中等症以上の割合

熱中症による救急搬送人員の中等症以上の割合は、全年齢でみると35.9%（42人）、65歳以上でみると52.9%（36人）、65歳未満でみると12.2%（6人）となり、65歳以上で割合が高くなっていることが分かります。（図6、図7、図8）

図1 2020年8月の最高気温と熱中症による救急搬送人員の推移

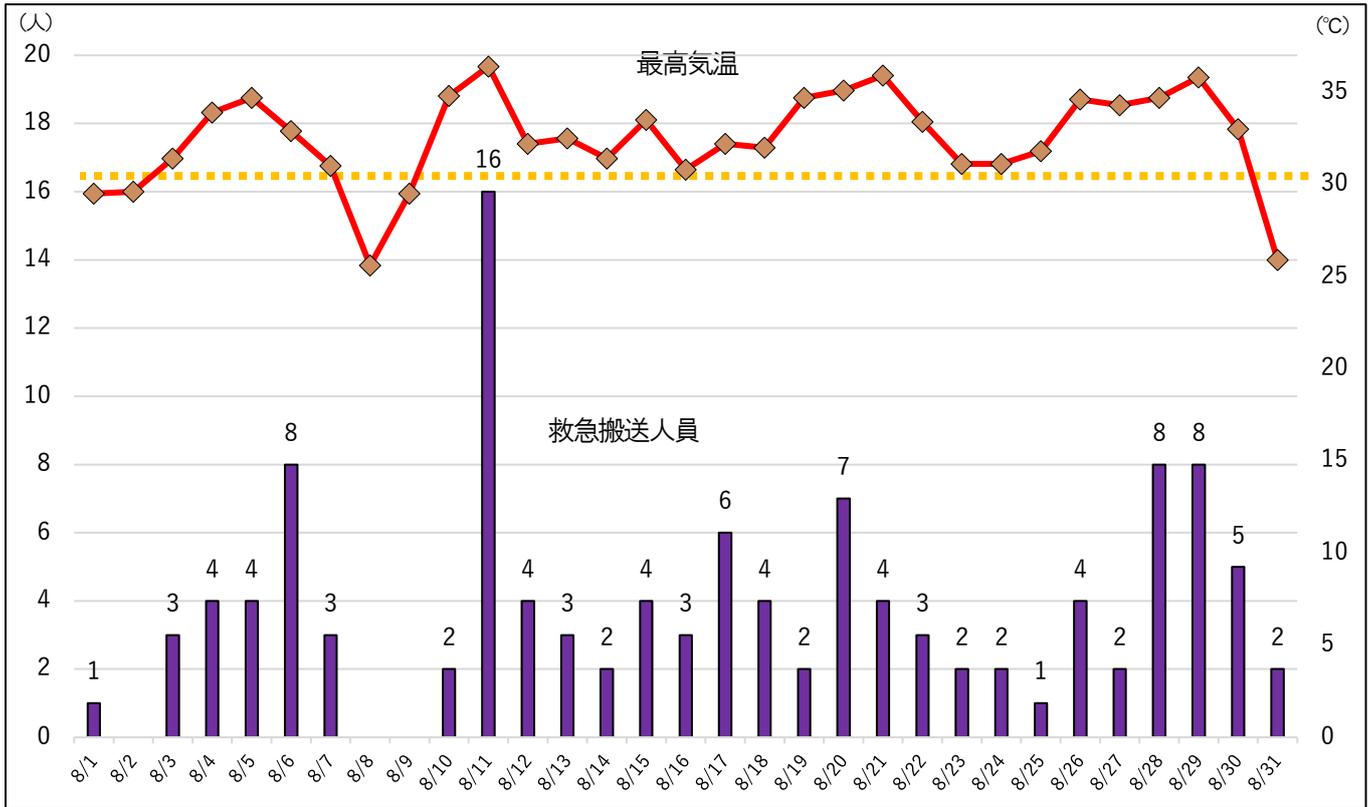
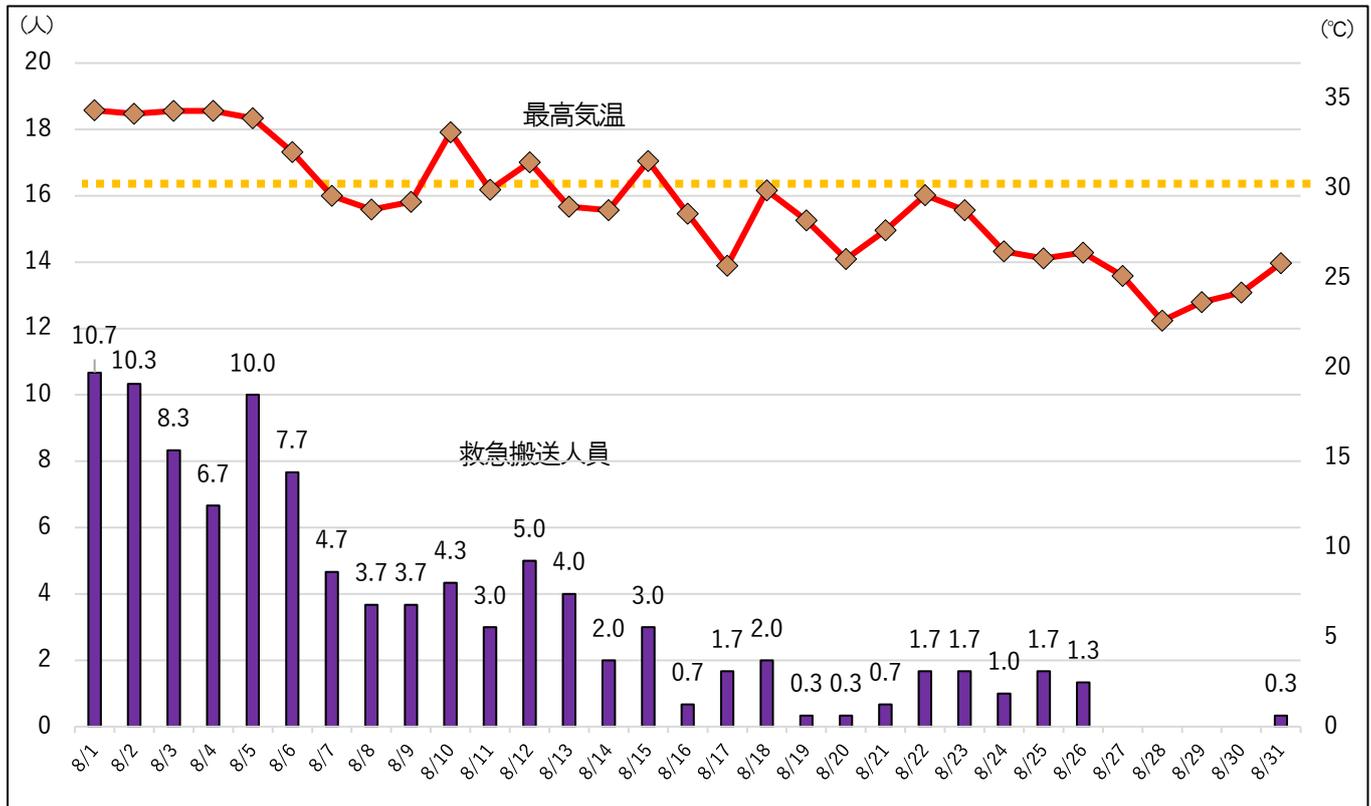


図2 過去の最高気温と熱中症による救急搬送人員の平均値の推移



※ 過去に熱中症による救急搬送人員の多かった2015年、2018年、2019年の平均値

図3 2020年8月の熱中症発症時の行動等（全年齢）

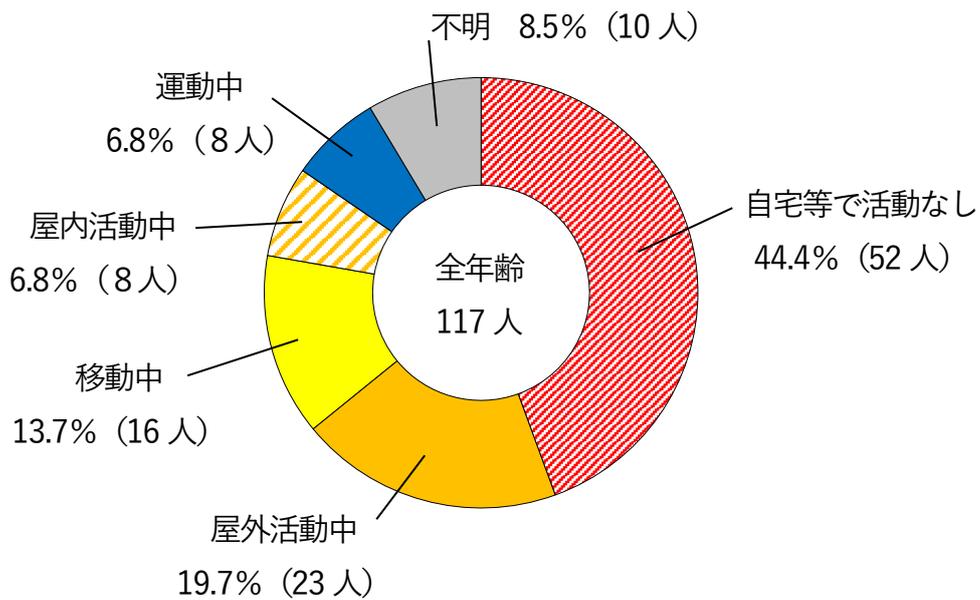


図4 2020年8月の熱中症発症時の行動等（65歳以上）

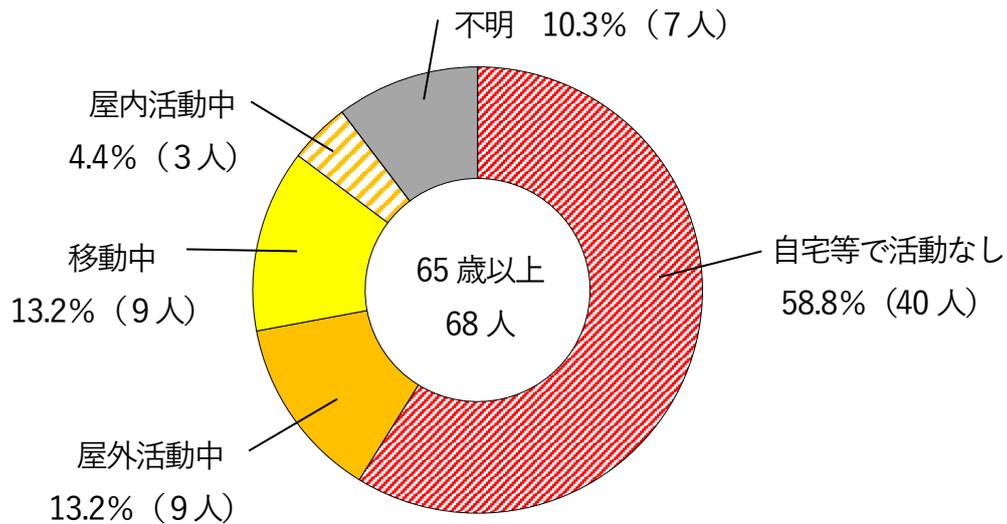


図5 2020年8月の熱中症発症時の行動等（65歳未満）

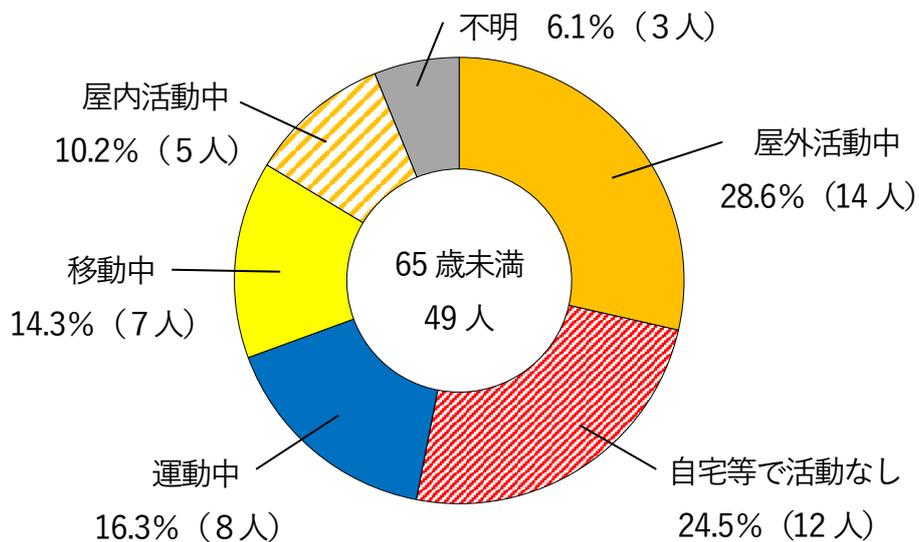


図6 中等症以上の割合（全年齢）

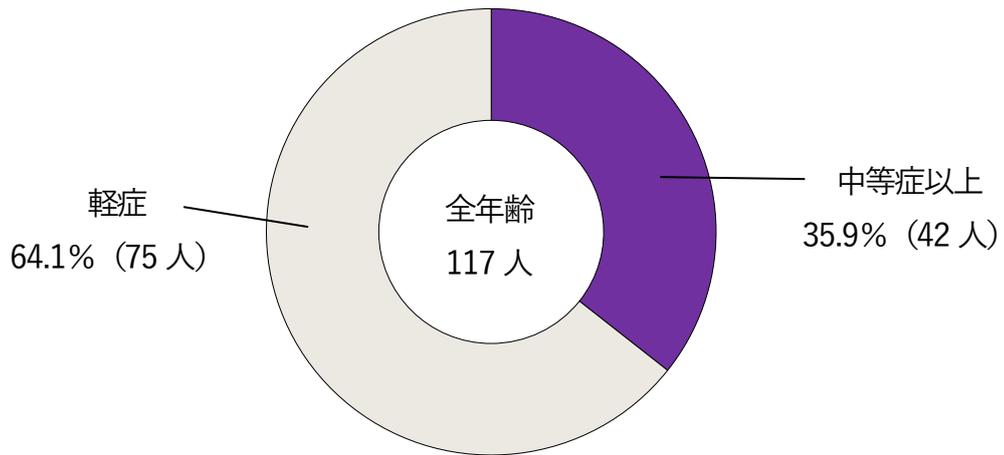


図7 中等症以上の割合（65歳以上）

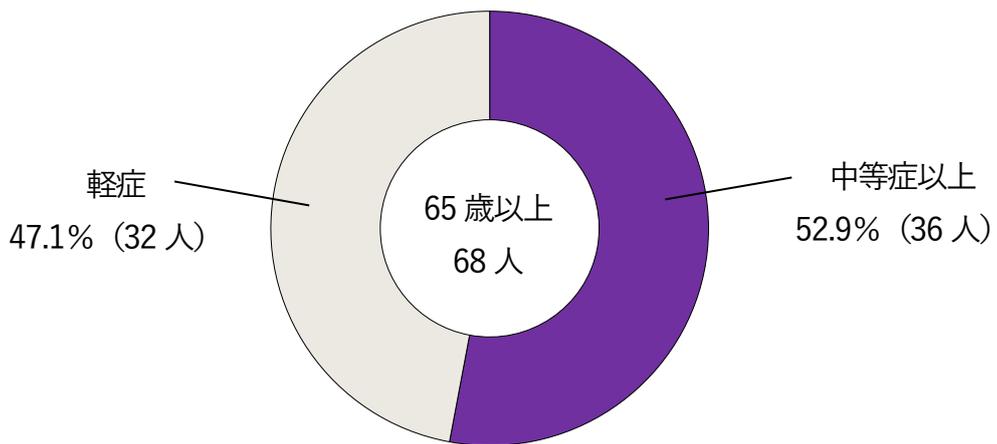


図8 中等症以上の割合（65歳未満）

